

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

No.137

令和6年3月4日
大牟田市11スクール
担当者通信

特色ある実践事例の紹介

「三池港」をPRしよう みなと小学校

校区にある世界文化遺産である三池港を教材に「三池港 PR」の学習に取り組みました。この学習は、3年生で行った生き物調べ、4年生で行った環境調べから発展した学習です。文化財保全に取り組む地域の方々と関わることで、三池港の価値を理解するとともに、自分たちも地域の方へ伝えることができないか、調査を行いました。本年度は、帝京大学の学生の皆さんに、動画やリーフレット、スライドを使い説明を行いました。その後、アドバイスをいただき、見る相手のことを考えた資料に仕上げました。完成した資料は12月に大牟田イオンモールで掲示を行いました。2月には、学習発表会で全校児童や保護者に発信しました。



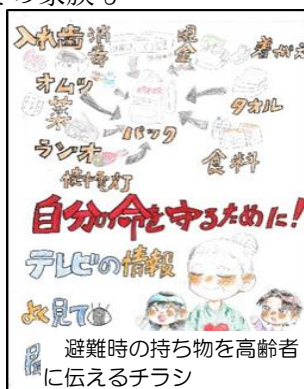
作成した動画などを大学生に見てもらった子どもたち



「高齢者宅訪問を通して伝えたいこと」宮原中学校

福祉のまちである本校区では、「認知症の人もその家族も誰もが安心安全に暮らせるまちづくり」をめざし様々な取組を行っています。3年生は、心を込めて作ったプレゼントや手紙をもって、高齢者の自宅を訪問し、交流する活動を行っています。

本年度は、防災・減災学習で学んだことをもとに、高齢者の方々が災害時どのような点に注意して避難すればよいかを分かりやすくポスターにまとめ、地域の民生委員さんに協力していただき、渡すことができました。



避難時の持ち物を高齢者に伝えるチラシ



中友ハッピータウンプロジェクト 中友小学校

中友小学校では、ESDの一環として、SDG11「住み続けられるまちづくりを」を基盤として、よりよい中友のまちづくり『中友ハッピータウンプロジェクト』をテーマに学習しています。本年度は、2年生が、十日市のお店見学をしたり、5年生が、子ども民生委員活動の一環として、十日市募金活動に参加したりしました。今後も、校区の目標である、子どもからお年寄りまでみんなが楽しく幸せに暮らせる中友校区をめざして、自分たちにできることを探りながら、校内や地域に向け、発信や実践を行っていきます。



十日市で募金活動に取り組む子どもたち



「竹害」から「竹財」へ 天の原小学校

天の原小学校では、「海や川に親しむ」「海や川を知る・守る」「山・川・海を守る・活用する」という視点で段階的に海洋教育に取り組み、学びを深めています。6年生は「山・川・海」のつながりに着目し、ゲストティーチャーの話を聞いたり、校区の森林を調査したりして、放置された竹林が環境へ害を及ぼしていることを知りました。また、竹の活用法について調べ、実際に自分達で竹を使った小物入れを作りました。本校と同じく海洋教育に取り組んでいる天領小、みなと小、台湾の小学校との交流会では、竹林による「竹害」の影響と竹林がもたらす「竹財」としての価値について発信することができました。



竹を活用した小物作りに取り組む子どもたち

